

# 定期作況報告

令和元年11月  
(11月20日現在)



北見農業試験場

# 1. 気象経過

## 1) 融雪期以降の経過

**4月**：平均気温は上旬が平年より低く、中旬で極めて高く、下旬は平年並みであった。月平均気温は5.0℃で平年並であった(+0.4℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬は平年並み、下旬は少なく、月合計は21.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年並、中旬はやや多く、下旬は平年並み、月合計は217.0時間で平年並であった。

**5月**：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬・下旬はともに極めて高かった。月平均気温は13.7℃で極めて高かった(+3.0℃)。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬は少なく、下旬は多く、月合計は75.5mmで平年より多かった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬は平年より多く、下旬は平年並みで、月合計は234.8時間でやや多かった。

**6月**：平均気温は上旬が平年並、中旬はやや低く、下旬は平年並であった。月平均気温は14.9℃で平年並であった(-0.2℃)。降水量は上旬が平年よりもやや多く、中旬は平年並み、下旬は少なく、月合計は65.5mmで平年よりやや少なかった。日照時間は上旬で平年よりもやや少なく、中旬は平年並で、下旬はやや多く、月合計は160.1時間で平年並であった。

**7月**：平均気温は上旬が平年より低く、中旬が平年並み、下旬は高かった。月平均気温は19.3℃で平年並であった(±0.0℃)。降水量は上・中・下旬ともに平年より少なく、月合計は38.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年並、中旬はやや少なく、下旬は平年並み、月合計は146.5時間で平年並であった。

**8月**：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中・下旬は低かった。月平均気温は18.8℃で平年より低かった(-1.1℃)。降水量は上旬が極めて多く、中旬は少なく、下旬は多く、月合計は228.5mmで平年より多かった。日照時間は上旬が平年並、中旬はやや少なく、下旬は平年並み、月合計は115.7時間で平年並であった。

**9月**：平均気温は上旬が平年より高く、中旬はやや低く、下旬は平年並みであった。月平均気温は16.0℃で平年並であった(+0.2℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬は平年並みで、下旬は多く、月合計は75.0mmで平年よりやや少なかった。日照時間は上旬が多く、中旬はやや少なく、下旬は平年並み、月合計は182.3時間で平年並であった。

**10月**：平均気温は上旬が平年より高く、中旬は平年並で、下旬は高かった。月平均気温は9.5℃で平年よりやや高かった(+1.2℃)。降水量は上旬が平年より多く、中旬は平年並み、下旬は多く、月合計は75.5mmで平年並であった。日照時間は上・中・下旬ともに平年並で、月合計は175.7時間で平年並であった。

**11月**：平均気温は上旬が平年より低く、中旬は平年並み、中旬までの平均気温は2.0℃で平年よりやや低かった(-1.0℃)。降水量は上旬で多く、中旬が平年並み、中旬までの合計は15.5mmで平年より少なかった。日照時間は上・中旬はともに平年並みで、中旬までの合計は112.5時間で平年よりやや多かった。

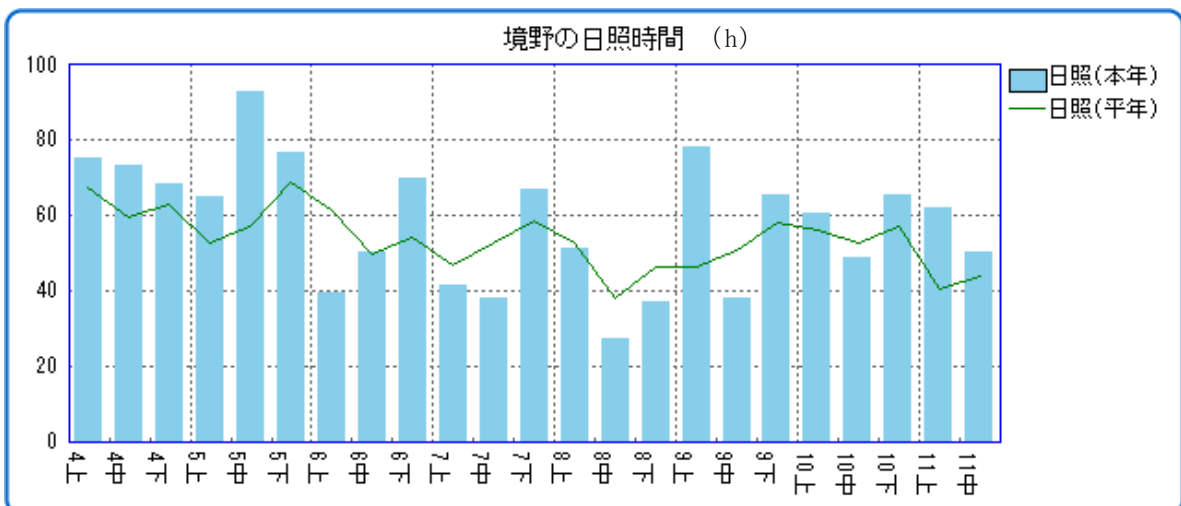
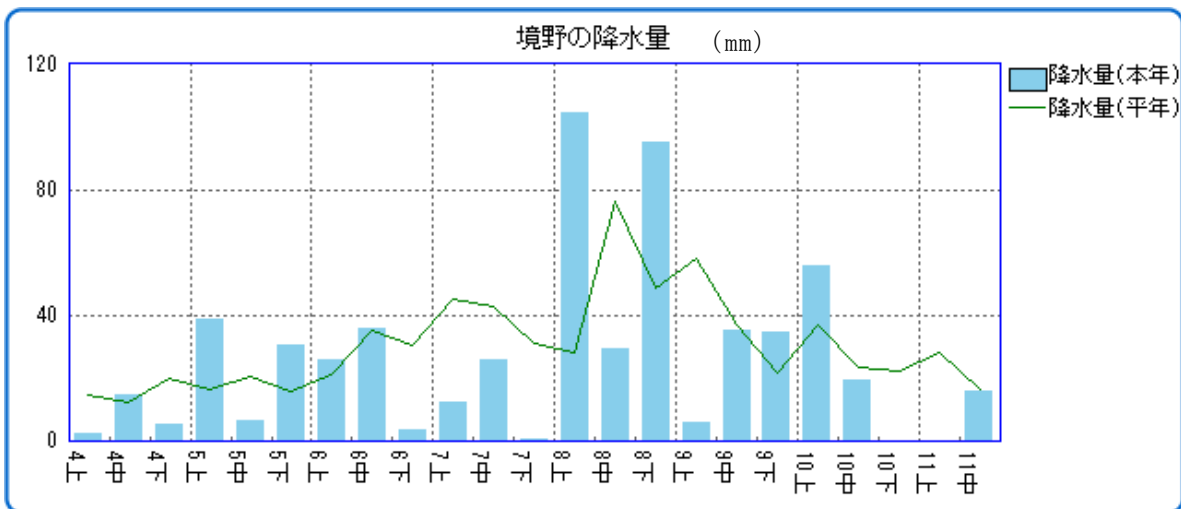
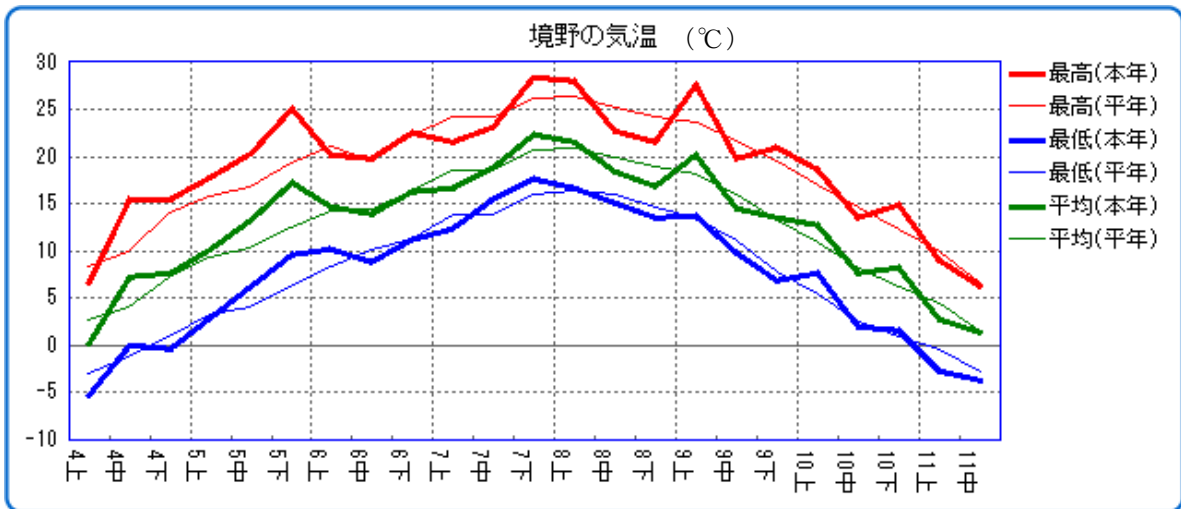
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

**気温**：5月は極めて高く、6月は平年並み、7月は平年並、8月はやや低く、9月は平年並であった。この期間の日平均気温の積算値は2536℃であった(平年差+65℃、平年比102%)。

**降水量**：5月は多く、6月はやや少なく、7月は少なく、8月は多く、9月はやや少なかった。この期間の降水量の積算は483mmであった(平年差-41.9mm、平年比92%)。

**日照時間**：5月はやや多く、6月～9月までいずれも平年並であった。この期間の日照時間の積算は839時間であった(平年差+45時間、平年比106%)。

## 2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



### 3) 気象表

年月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
2019年	上旬	0.2	2.6	-2.4	6.7	8.3	-1.6	-5.3	-3.1	-2.2	2.0	14.5	-12.5	75.2	67.2	8.0
4月	中旬	7.2	4.1	3.1	15.4	9.9	5.5	0.0	-1.2	1.2	14.5	12.2	2.3	73.2	59.8	13.4
	下旬	7.6	7.2	0.4	15.4	14.1	1.3	-0.4	0.9	-1.3	5.0	20.0	-15.0	68.6	62.8	5.8
	上旬	10.2	9.3	0.9	17.8	15.7	2.1	2.8	3.3	-0.5	38.5	16.0	22.5	65.0	52.7	12.3
5月	中旬	13.2	10.2	3.0	20.4	16.7	3.7	6.2	4.1	2.1	6.5	20.5	-14.0	93.1	57.3	35.8
	下旬	17.3	12.5	4.8	25.0	19.4	5.6	9.6	6.2	3.4	30.5	15.3	15.2	76.7	68.8	7.9
	上旬	14.6	14.3	0.3	20.2	21.0	-0.8	10.2	8.3	1.9	26.0	20.6	5.4	39.5	61.4	-21.9
6月	中旬	13.9	14.5	-0.6	19.7	19.6	0.1	8.7	10.1	-1.4	36.0	35.1	0.9	50.5	49.6	0.9
	下旬	16.3	16.4	-0.1	22.5	22.3	0.2	11.1	11.3	-0.2	3.5	30.5	-27.0	70.1	54.0	16.1
	上旬	16.6	18.5	-1.9	21.6	24.2	-2.6	12.3	13.9	-1.6	12.5	44.9	-32.4	41.4	46.8	-5.4
7月	中旬	18.7	18.6	0.1	23.1	24.2	-1.1	15.4	13.8	1.6	25.5	42.6	-17.1	38.2	52.5	-14.3
	下旬	22.4	20.6	1.8	28.3	26.2	2.1	17.6	16.0	1.6	0.5	30.7	-30.2	66.9	58.4	8.5
	上旬	21.6	20.8	0.8	27.9	26.3	1.6	16.7	16.3	0.4	104.5	27.7	76.8	51.5	52.5	-1.0
8月	中旬	18.3	20.0	-1.7	22.6	25.1	-2.5	15.0	16.0	-1.0	29.0	76.4	-47.4	27.1	38.2	-11.1
	下旬	16.8	19.0	-2.2	21.6	24.3	-2.7	13.5	14.7	-1.2	95.0	48.4	46.6	37.1	46.1	-9.0
	上旬	20.2	18.2	2.0	27.6	23.6	4.0	13.7	13.4	0.3	5.5	58.0	-52.5	78.4	46.5	31.9
9月	中旬	14.5	15.9	-1.4	19.8	21.6	-1.8	9.7	11.0	-1.3	35.0	36.8	-1.8	38.2	50.6	-12.4
	下旬	13.4	13.3	0.1	20.9	19.5	1.4	6.9	7.8	-0.9	34.5	21.4	13.1	65.7	58.2	7.5
	上旬	12.7	10.9	1.8	18.6	17.0	1.6	7.6	5.4	2.2	56.0	36.5	19.5	60.8	56.3	4.5
10月	中旬	7.6	8.1	-0.5	13.4	14.6	-1.2	1.9	2.4	-0.5	19.5	23.0	-3.5	49.1	52.7	-3.6
	下旬	8.2	6.1	2.1	14.9	12.2	2.7	1.6	0.9	0.7	0.0	22.0	-22.0	65.8	56.9	8.9
	上旬	2.6	4.5	-1.9	9.0	9.9	-0.9	-2.8	-0.5	-2.3	0.0	27.9	-27.9	62.2	40.4	21.8
11月	中旬	1.3	1.4	-0.1	6.2	6.5	-0.3	-3.7	-2.9	-0.8	15.5	16.2	-0.7	50.3	43.8	6.5
	本年	5.0	4.6	0.4	12.5	10.8	1.7	-1.9	-1.1	-0.8	21.5	46.7	-25.2	217.0	189.8	27.2
	10年平均	13.7	10.7	3.0	21.2	17.3	3.9	6.3	4.6	1.7	75.5	51.8	23.7	234.8	178.8	56.0
4月	14.9	15.1	-0.2	20.8	21.0	-0.2	10.0	9.9	0.1	65.5	86.2	-20.7	160.1	165.0	-4.9	
5月	19.3	19.3	0.0	24.5	24.9	-0.4	15.2	14.6	0.6	38.5	118.2	-79.7	146.5	157.7	-11.2	
6月	18.8	19.9	-1.1	24.0	25.2	-1.2	15.0	15.6	-0.6	228.5	152.5	76.0	115.7	136.8	-21.1	
7月	16.0	15.8	0.2	22.8	21.6	1.2	10.1	10.7	-0.6	75.0	116.2	-41.2	182.3	155.3	27.0	
8月	9.5	8.3	1.2	15.6	14.5	1.1	3.6	2.8	0.8	75.5	81.5	-6.0	175.7	165.9	9.8	
9月	2.0	3.0	-1.0	7.6	8.2	-0.6	-3.3	-1.7	-1.6	15.5	44.1	-28.6	112.5	84.2	28.3	

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる(てん蔵の定期作況気象情報)。10年平均は前10か年の平均値である。

### 4) 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

年次	初霜 (年.月.日)	根雪始 (年.月.日)	根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)	初霜 (年.月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	2018.10.18	2018.12.7	2019.4.6	121	2019.4.27	2019.4.17	2019.5.13	2019.10.7	146	2019.11.6
平年	10.12	12.3	4.11	130	4.29	4.28	5.7	10.14	159	11.2
比較	6	4	-5	-9	-2	-11	6	-7	-13	4

項目		平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
5月上旬 ～ 9月下旬	本年	2,536.1	483.0	839.4
	10年平均	2,470.8	524.9	793.6
	比較	65.3	△ 41.9	45.8

注) 農耕期間の積算値は置戸町境野のアメダスにより、それ以外は北見農試観測値である。平年値は前10か年の平均値である。

## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦（平成30年9月播種） 作 況：良

事 由：播種期は平年より2日早い9月14日で、出芽期は平年より3日早い9月22日であった。出芽後、平均気温は平年より高く推移したため生育は良好で、越冬前の草丈、茎数は平年を大きく上回った。根雪始は平年より4日遅い12月7日、根雪終は平年より5日早い4月6日で、積雪期間は平年より9日短かった。調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪が根雪終の観測地点より17日早い3月20日で、雪腐病の発生は少なかった。

融雪以降、4月の平均気温は平年並で、5月は平年より極めて高く経過したため、生育は進み、出穂期は平年より7日早い6月1日であった。6月下旬および7月中旬の平均気温は平年並で、7月上旬は低温であったことから登熟は緩やかに進み、成熟期は平年より1日早い7月23日で、登熟期間は平年より6日長かった。稈長は平年よりやや短い、穂長は平年並で穂数が多かった。倒伏は発生しなかった。子実重は平年比110%で、リットル重は平年並、千粒重は平年をやや上回った。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目		きたほなみ		
		本年	平年	比較
播種期	(平成30年月.日)	9.14	9.16	△2
出芽期	(平成30年月.日)	9.22	9.25	△3
出穂期	(令和1年月.日)	6.1	6.8	△7
成熟期	(令和1年月.日)	7.23	7.24	△1
草丈(cm)	(平成30年11月20日)	24.3	17.2	7.1
草丈(cm)	(令和1年5月20日)	43.8	37.6	6.2
草丈(cm)	(令和1年6月20日)	90.1	91.9	△1.8
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(平成30年11月20日)	1932	1142	790
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(令和1年5月20日)	1453	1408	45
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(令和1年6月20日)	917	706	211
稈長(cm)	(成熟期)	78	83	△5
穂長(cm)	(成熟期)	8.1	8.6	△0.5
穂数(本/m <sup>2</sup> )	(成熟期)	843	681	162
子実重(kg/10a)		790	718	72
同上平年比(%)		110	100	10
リットル重(g)		808	804	4
千粒重(g)		40.8	39.4	1.4
品質(検査等級)		1	1	-

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均値。

2) 秋まき小麦（令和1年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種期は平年より3日遅い9月19日であった。出芽期は平年より3日遅い9月27日であった。出芽後、10月下旬まで平均気温は平年並から高かったが、11月上旬は低く経過した。越冬前の草丈は平年並、茎数は平年を下回ったが、越冬に必要な生育量は確保できた。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (令和1年月.日)	9.19	9.16	3
出芽期 (令和1年月.日)	9.27	9.24	3
草丈(cm) (令和1年11月20日)	18.8	18.8	0.0
茎数(本/m <sup>2</sup> ) (令和1年11月20日)	1022	1301	△279

注)平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均値。

## 3) 春まき小麦

作 況：やや良

事 由：

調査圃場は融雪剤散布により3月25日に根雪終となった。3月下旬から4月上旬の降水量は少なく圃場の乾燥が進んだことから、播種期は平年より4日早い4月12日となった。播種後の4月中下旬の気温は平年並から高く推移したため、出芽期は平年より6～7日早かった。5月下旬の気温が極めて高ったため、生育が進み、出穂期は平年より6～7日早かった。7月中旬の降雨により「春よ恋」でわずかに倒伏が生じた。成熟期は平年並から1日早かった。稈長は平年より短く、穂長は平年並で、穂数は平年並からやや多かった。登熟期間が平年より長かったことから、子実重は平年比100～108%で平年並から上回った。リットル重は平年並からやや下回り、千粒重は平年をやや上回った。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.12	4.16	△ 4	4.12	4.16	△ 4	
出芽期 (月.日)	4.24	4.30	△ 6	4.25	5.2	△ 7	
出穂期 (月.日)	6.15	6.21	△ 6	6.13	6.20	△ 7	
成熟期 (月.日)	8.4	8.5	△ 1	8.7	8.7	0	
草丈(cm)	(5月20日)	23.1	17.2	5.9	24.0	17.5	6.5
	(6月20日)	76.1	69.6	6.5	75.9	69.4	6.5
茎数(本/m <sup>2</sup> )	(5月20日)	738	514	224	728	491	237
	(6月20日)	755	813	△ 58	668	809	△ 140
稈長(cm) (7月20日)	89	97	△ 8	87	94	△ 6	
穂長(cm) (7月20日)	8.3	8.2	0.1	7.7	7.7	0.0	
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	699	616	83	655	638	17	
子実重(kg/10a)	569	526	43	523	521	2	
同上平年比 (%)	108	100	8	100	100	0	
リットル重 (g)	805	806	△ 1	792	803	△ 11	
千粒重 (g)	41.0	39.4	1.6	42.6	41.1	1.5	
品質 (検査等級)	1	1	-	1	1	-	

注) 平年値は前7か年中、27年(最豊)、平成29年(最凶)を除く5か年の平均。

## 4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 平年並

事 由 : 播種期は平年より1日早い5月15日で、5月下旬の気温が極めて高く推移したことから出芽期は平年より2日早い5月28日であった。出芽後は平均気温が平年並からやや低く推移したものの、開花期は平年より3日、抽糸期は平年より2日早かった。抽糸期後の8月中旬以降平均気温が低く推移したものの、9月上旬は高温傾向であり、収穫期はほぼ平年並の9月25日であった。収穫時の子実の熟度は黄熟中期と平年より進み、総体の乾物率は平年並であった。乾物茎葉重は平年並、乾物雌穂重は平年よりやや少なく、乾物総重および推定TDN収量はそれぞれ平年比98%および97%と、ともに平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.15	5.16	△1	
出芽期 (月.日)	5.28	5.30	△2	
開花期 (月.日)	7.30	8.2	△3	
抽糸期 (月.日)	7.30	8.1	△2	
収穫期 (月.日)	9.25	9.24	1	
収穫時の熟度	黄熟中期	黄熟初期		
草丈 (cm)	(6月20日)	37.3	31.3	6.0
	(7月20日)	173.1	165.4	7.7
	(8月20日)	272.2	295.7	△23.5
稈長 (cm)	(9月20日)	252	261	△9
葉数 (枚)	(6月20日)	6.5	4.7	1.8
	(7月20日)	13.9	12.5	1.4
	(8月20日)	15.1	14.9	0.2
生総重 (kg/10a)	6236	6345	△109	
乾物茎葉重 (kg/10a)	888	879	9	
乾物雌穂重 (kg/10a)	957	1009	△52	
乾物総重 (kg/10a)	1844	1888	△44	
同上平年比 (%)	98	100	△2	
推定TDN収量 (kg/10a)	1330	1369	△39	
同上平年比 (%)	97	100	△3	
総体の乾物率 (%)	29.6	29.8	△0.2	
乾雌穂重割合 (%)	52.0	53.5	△1.5	
有効雌穂割合 (%)	100.0	99.3	0.7	

注1) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。



## 5) 大豆

作 況：良

事 由：播種は平年より2日早い5月20日に行った。播種直後は適湿と高温で、出芽は平年より5日早かった。出芽後も順調に生育し、開花始は平年より3日早かった。以降も低温時期に生育の停滞がわずかにあったものの、全般的には順調な生育であり、成熟期は平年より3日早い9月23日であった。主茎長、主茎節数は平年を下回り、分枝数も平年並であったが、着莢数、一莢内粒数、百粒重は平年を上回った。子実重は平年比111%と多収であった。屑粒率は平年よりやや高かったが、検査等級はしわ粒が少なく平年より優った。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目		ユキホマレ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.20	5.22	△ 2
出芽期	(月.日)	5.29	6. 3	△ 5
開花始	(月.日)	7.17	7.20	△ 3
成熟期	(月.日)	9.23	9.26	△ 3
主茎長 (cm)	(6月20日)	11.8	11.2	0.6
	(7月20日)	54.3	48.4	5.9
	(8月20日)	61.3	67.6	△ 6.3
	(9月20日)	61.8	67.7	△ 5.9
	(成熟期)	61.1	68.1	△ 7.0
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.1	0.8	0.3
	(7月20日)	8.1	6.9	1.2
主茎節数	(8月20日)	10.0	11.0	△ 1.0
	(9月20日)	10.0	11.0	△ 1.0
	(成熟期)	10.1	11.0	△ 0.9
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5.4	4.2	1.2
	(8月20日)	6.1	5.7	0.4
	(9月20日)	5.6	5.0	0.6
	(成熟期)	5.3	5.1	0.2
着莢数 (個/株)	(8月20日)	82.4	77.1	5.3
	(9月20日)	71.7	67.8	3.9
	(成熟期)	72.9	67.2	5.7
一莢内粒数		2.04	1.90	0.14
子実重 (kg/10a)		390	350	40
同上平年比 (%)		111	100	11
百粒重 (g)		34.6	33.8	0.8
屑粒率 (%)		2.1	1.2	0.9
品質 (検査等級)		1等	2上	—

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

## 6) 小豆

作 況 : 良

事 由 : 播種は平年より2日早い5月20日に行った。播種後の適湿・高温で、出芽期は平年より5～6日早かった。出芽後は一時低温で生育が停滞したもののその後回復し、開花始は1～2日早かった。以降も低温時期に生育の停滞がわずかにあったものの、ほぼ順調な生育であり、成熟期は平年より1～3日遅い程度であった。両品種とも、主茎長、主茎節数、分枝数は平年を下回った。着莢数は「サホロショウズ」で平年を上回ったが、「エリモショウズ」では下回った。一莢内粒数は「サホロショウズ」で平年を下回ったが、「エリモショウズ」ではほぼ平年並であった。両品種とも百粒重は平年より重く、子実重は平年比110～115%と多収であった。屑粒率は平年よりやや高かったが、検査等級は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			きたろまん (参考)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月・日)	5.20	5.22	△ 2	5.20	5.22	△ 2	5.20	5.21	△ 1	
出芽期 (月・日)	6. 1	6. 7	△ 6	6. 2	6. 7	△ 5	6. 2	6. 4	△ 2	
開花始 (月・日)	7.23	7.24	△ 1	7.24	7.26	△ 2	7.24	7.25	△ 1	
成熟期 (月・日)	9.29	9.26	3	10. 2	10. 1	1	9.27	9.30	△ 3	
主茎長 (cm)	(6月20日)	3.7	3.7	0.0	3.6	3.8	△ 0.2	3.6	3.9	△ 0.3
	(7月20日)	15.7	15.0	0.7	15.7	15.9	△ 0.2	15.3	16.6	△ 1.3
	(8月20日)	73.6	70.5	3.1	62.5	62.9	△ 0.4	57.5	69.6	△12.3
	(9月20日)	73.5	77.0	△ 3.5	64.7	67.7	△ 3.0	57.9	75.0	△17.1
	(成熟期)	71.3	78.1	△ 6.8	63.1	68.3	△ 5.2	57.1	72.8	△15.7
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.3	0.4	△ 0.1	0.3	0.4	△ 0.1	0.2	0.4	△ 0.2
	(7月20日)	6.9	6.0	0.9	7.3	6.0	1.3	7.3	6.1	1.2
主茎節数	(8月20日)	12.3	13.4	△ 1.1	12.6	14.1	△ 1.5	11.7	13.4	△ 1.7
	(9月20日)	12.6	13.8	△ 0.8	12.9	14.3	△ 1.4	12.0	13.3	△ 1.3
	(成熟期)	12.5	13.8	△ 1.3	12.8	14.1	△ 1.3	11.9	13.3	△ 1.4
分枝数 (本/株)	(7月20日)	2.3	1.4	0.9	2.7	1.4	1.3	2.6	1.3	1.3
	(8月20日)	3.7	3.9	△ 0.2	3.7	3.7	0.0	3.3	2.9	0.4
	(9月20日)	3.4	3.9	△ 0.5	3.4	3.6	△ 0.2	3.1	2.9	0.2
	(成熟期)	3.2	3.6	△ 0.4	3.3	3.7	△ 0.4	2.3	4.5	△ 1.7
着莢数 (個/株)	(8月20日)	49.1	39.4	9.7	34.9	39.5	△ 4.6	48.6	33.7	14.9
	(9月20日)	56.4	53.1	3.3	50.0	54.0	△ 4.0	55.6	47.1	8.5
	(成熟期)	57.2	52.4	4.8	49.7	55.5	△ 5.8	54.5	48.7	5.8
一莢内粒数	5.37	6.14	△0.77	6.43	6.47	△0.04	6.20	6.60	△0.40	
子実重(kg/10a)	402	365	37	444	386	58	458	356	102	
同上平年比 (%)	110	100	10	115	100	15	129	100	29	
百粒重 (g)	16.1	15.3	0.8	15.3	14.5	0.8	17.2	16.7	0.5	
屑粒率 (%)	6.7	5.6	1.1	9.3	5.8	3.5	5.4	6.8	△ 1.4	
品質 (検査等級)	4上	4上	—	4中	4中	—	4上	4上	—	

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

ただし、きたろまん(参考)は前5か年(平成26～30年)の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

## 7) 菜豆

作況：やや良

事由：播種は平年より2日早い5月20日に行った。播種後の適湿・高温で、出芽期は平年より5日早かった。以降もほぼ順調に生育し、開花始は平年より4日早い7月6日、成熟期は平年より3日早い8月31日であった。成熟期の草丈は平年を下回ったが、主茎節数と分枝数はやや多く、着莢数は平年並であった。一莢内粒数も平年並であったが、百粒重は平年よりやや軽かった。子実重は平年比107%とやや多収であった。若干小粒傾向に加え、色流れ粒の発生も少々あり、屑粒率は平年よりやや高かった。検査等級は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目		大正金時		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.20	5.22	△ 2
出芽期	(月.日)	5.30	6. 4	△ 5
開花始	(月.日)	7. 6	7.10	△ 4
成熟期	(月.日)	8.31	9. 3	△ 3
草丈 (cm)	(6月20日)	11.2	10.7	0.5
	(7月20日)	35.7	37.8	△ 2.1
	(8月20日)	34.8	43.3	△ 8.5
	(9月20日)			
	(成熟期)	35.1	43.0	△ 7.9
本葉数(枚)	(6月20日)	1.1	0.7	0.4
	(7月20日)	3.9	3.8	0.1
主茎節数	(8月20日)	5.9	5.3	0.6
	(9月20日)			
	(成熟期)	5.6	5.2	0.4
分枝数(本/株)	(7月20日)	5.9	5.0	0.9
	(8月20日)	5.5	4.8	0.7
	(9月20日)			
	(成熟期)	5.9	4.8	1.1
着莢数(個/株)	(8月20日)	19.7	21.1	△ 1.4
	(9月20日)			
	(成熟期)	20.0	20.3	△ 0.3
一莢内粒数		2.89	2.84	0.05
子実重(kg/10a)		324	302	22
同上平年比(%)		107	100	7
百粒重(g)		63.9	67.3	△ 3.4
屑粒率(%)		12.3	11.8	0.5
品質(検査等級)		3中	3中	—

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 屑粒：[下屑粒]+[色流れ粒]。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

## 8) ばれいしょ

作 況：やや良

事 由：植え付けは平年より1日早い5月10日に行った。植え付け後の平均気温が高かったことから初期生育は良好で、萌芽期は平年より4～5日早く、6月20日の茎長は平年より3～5cm長く、開花始は平年より2～3日早かった。しかし、7月上～中旬の低温の影響で「男爵薯」、「コナフブキ」では7月中旬、「コナユタカ」では7月下旬に地上部の伸長が停止し、8月の茎長は平年より8～12cm短かった。

「男爵薯」では7月下旬の高温で茎葉黄変が進み、枯ちよう期は平年より4日早い8月28日であった。塊茎の初期肥大は良好であったことから、株あたり上いも数がやや多く、上いも重は平年比113%であった。「コナフブキ」では枯ちよう期は平年より2日遅い10月6日であった。塊茎の初期肥大は良好であったものの、倒伏の影響で9月以降塊茎肥大が鈍化し、上いも重は平年比103%であった。でん粉価は平年より高く、でん粉重は平年比108%であった。

「コナユタカ」では、「コナフブキ」と同様に、株あたり上いも数は平年より少なく、上いも平均重は大きく、でん粉価は高かった。上いも重は平年比98%、でん粉重は平年比105%であった。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			コナユタカ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.10	5.11	△ 1	5.10	5.11	△ 1	5.10	5.11	△ 1	
萌芽期 (月.日)	5.28	6. 1	△ 4	5.28	6. 2	△ 5	5.30	6. 4	△ 5	
開花始 (月.日)	6.27	6.29	△ 2	6.26	6.29	△ 3	7. 2	7. 5	△ 3	
枯ちよう期 (月.日)	8.28	9. 1	△ 4	10.6	10.4	2	—	—	—	
茎長(cm)	(6月20日)	25.4	22.3	3.1	27.6	22.4	5.2	16.6	12.3	4.3
	(7月20日)	43	50	△ 7	67	71	△ 4	73	69	4
	(8月20日)	43	51	△ 8	67	79	△12	79	91	△12
茎数(本/株)	(6月20日)	4.0	3.8	0.2	3.0	3.1	△0.1	2.7	2.7	0.0
	(7月20日)	4.2	4.1	0.1	3.4	3.5	△0.1	2.8	2.8	0.0
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	5146	4482	664	4443	3847	596	3994	3737	257
	(9月20日)	—	—	—	4589	4778	△189	6097	5582	515
でん粉価(%)	(8月20日)	16.7	15.4	1.3	21.1	21.2	△0.1	19.0	19.2	△0.2
	(9月20日)	—	—	—	23.2	23.0	0.2	21.7	21.0	0.7
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)	—	—	—	1019	1030	△11	1265	1109	156
上いも数(個/株)		11.8	10.7	1.1	10.0	10.8	△0.8	7.8	9.7	△1.9
上いも平均重(g)		98	96	2	116	105	11	183	151	32
上いも重(kg/10a)		5146	4540	606	5145	4998	147	6335	6449	△114
同上平年比(%)		113	100	13	103	100	3	98	100	△ 2
でん粉価(%)		16.7	15.3	1.4	23.5	22.3	1.2	23.3	21.9	1.4
でん粉重(kg/10a)		—	—	—	1157	1067	90	1411	1348	63
同上平年比(%)		—	—	—	108	100	8	105	100	5

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

## 9) てんさい

作 況：平年並

事 由：移植栽培の播種は、平年より3日遅い3月25日に行った。育苗期間中の苗の生育は順調であった。移植は、平年より4日遅い5月8日に行った。移植の前後に降雨があったため、活着は順調であった。直播栽培の播種は、平年より4日遅い5月8日に行なった。出芽期は、播種期を反映して、平年より3日遅い5月20日であった。

5月20日を中心として、数日間にわたり風速20m以上の強風が吹いた影響で、生育が抑制された。その後、6月下旬からやや乾燥傾向になり、特に移植の生育が抑制されたものの、8月上旬にまとまった降雨があって乾燥傾向が解消し、生育は持ち直した。その後は十分な降雨と日照時間により、生育は順調に進んだ。

収穫は、平年より2日早い10月18日に行った。収穫期の根重は平年並であった（平年比101%）。また収穫期の根中糖分は、夏から秋の最低気温がおしなべて平年並であったため平年並であった（平年比100%）。このため、糖量もほぼ平年並であった（平年比101%）。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

表

調査項目		移植						直播		
		モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	3.25	3.22	3	3.25	3.22	3	5.8	5.4	4
移植期	(月.日)	5.8	5.4	4	5.8	5.4	4	-	-	-
出芽期	(月.日)	-	-	-	-	-	-	5.20	5.17	3
収穫期	(月.日)	10.18	10.20	△2	10.18	10.20	△2	10.18	10.20	△2
草丈 (cm)	(5月20日)	7.3	6.7	0.6	6.9	6.4	0.5	-	-	-
	(6月20日)	23.8	26.9	△3.1	23.6	28.1	△4.5	12.7	13.7	△1.0
	(7月20日)	49.5	53.1	△3.6	48.0	52.8	△4.8	48.2	47.4	0.8
	(8月20日)	56.3	58.3	△2.0	56.0	57.9	△1.9	59.3	60.1	△0.8
	(9月20日)	57.0	60.0	△3.0	60.8	59.5	1.3	62.8	61.4	1.4
生葉数 (枚)	(5月20日)	5.7	5.1	0.6	5.4	4.5	0.9	-	-	-
	(6月20日)	11.3	11.5	△0.2	11.3	11.8	△0.5	7.1	7.9	△0.8
	(7月20日)	18.1	18.2	△0.1	19.3	20.3	△1.0	16.9	15.3	1.6
	(8月20日)	23.0	23.2	△0.2	25.0	26.2	△1.2	21.1	21.8	△0.7
	(9月20日)	26.1	25.8	0.3	29.9	28.7	1.2	25.7	22.7	3.0
茎葉重 (g/個 体)	(6月20日)	57	102	△45	49	112	△63	10	13	△3
	(7月20日)	441	520	△79	472	562	△90	374	333	41
	(8月20日)	788	743	45	798	847	△49	738	730	8
	(9月20日)	747	695	52	868	827	41	759	694	65
根重 (g/個 体)	(6月20日)	10	18	△8	11	27	△16	1	1	△0
	(7月20日)	235	268	△33	241	288	△47	148	108	40
	(8月20日)	765	761	4	697	782	△85	626	531	95
	(9月20日)	1131	1088	43	1044	1073	△29	1031	876	155
根周 (cm)	(7月20日)	21.2	22.3	△1.1	21.2	23.3	△2.1	17.8	16.1	1.7
	(8月20日)	33.0	32.7	0.3	31.4	34.2	△2.8	29.3	28.0	1.3
	(9月20日)	37.1	36.9	0.2	38.5	38.6	△0.1	34.6	33.0	1.6
根中糖分 (%)	(9月20日)	15.61	15.77	△0.16	16.10	16.23	△0.13	15.92	15.26	0.66
茎葉重 (kg/10a)	(収穫期)	5005	4272	733	6168	5057	1111	4903	4520	383
根重 (kg/10a)	(収穫期)	7835	7923	△88	7258	7409	△151	6864	6559	305
同上平年比(%)		99	100	△1	98	100	△2	105	100	5
根中糖分(%)		17.73	17.61	0.12	18.37	18.46	△0.09	17.46	17.68	△0.22
同上平年比(%)		101	100	1	100	100	0	99	100	△1
糖量(kg/10a)		1389	1387	2	1333	1358	△25	1198	1153	45
同上平年比(%)		100	100	0	98	100	△2	104	100	4

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

## 10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : 不良

事 由 : 萌芽期は平年より 8 日早い 4 月 13 日であり、冬損程度は平年並であった。

1 番草 ; 5 月下旬の平均気温が平年に比べて極めて高く、出穂始と出穂期が平年より 5~6 日早まったため、1 番草収穫は平年より 9 日早い 6 月 10 日に行った。収穫時の草丈は平年より 15cm 低く、乾物収量は平年比 77% と少なかった。

2 番草 ; 2 番草収穫は平年より 9 日早い 7 月 30 日に行った。節間伸長程度は平年並、草丈は平年に比べてやや低く、乾物収量は平年比 92% とやや少なかった。

3 番草 ; 3 番草の収穫は平年より 7 日早い 9 月 26 日に行い、乾物収量の平年比は 119% と多かった。1~3 番草の年間合計乾物収量の平年比は 87% と少なかった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

表 その 1

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.13	4.21	△8
冬損程度		1.0	1.0	0.0
被度(%)	(5月20日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.5	6.11	△6
出穂期	(月.日)	6.10	6.15	△5
出穂程度	1番草	5.3	7.6	△2.3
節間伸長程度	2番草	4.3	4.3	0.0
刈取日(月.日)	1番草	6.10	6.19	△9
	2番草	7.30	8.8	△9
	3番草	9.26	10.3	△7
倒伏程度	1番草	1.0	1.0	0.0
病害罹病程度	1番草	1.0	1.0	0.0
	2番草	2.5	2.3	0.2
	3番草	2.8	2.5	0.3
草丈(cm)	(5月20日)	47	36	11
	(6月5日)	74	75	△1
	1番草	85	100	△15
	2番草再生時	33	38	△5
	2番草	56	63	△7
	3番草再生時	40	40	0
	3番草	43	42	1
生草収量(kg/10a)	1番草	2,013	2,698	△685
	2番草	733	896	△163
	3番草	573	581	△8
	合計	3,319	4,175	△856
乾物率(%)	1番草	22.8	22.1	0.7
	2番草	26.8	24.5	2.3
	3番草	30.5	26.5	4.0

表 その2

調査項目		なつちから		
		本年	平年	比較
乾物収量 (kg/10a)	1番草	459	593	△134
	同上平年比 (%)	77	100	△23
	2番草	197	213	△16
	同上平年比 (%)	92	100	△8
	3番草	175	147	28
	同上平年比 (%)	119	100	19
	合計	831	953	△122
	同上平年比 (%)	87	100	△13

注1) 平年値は前7か年中、平成24年（最豊）、平成27年（最凶）を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度は1:無または微～9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無～9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。



11) たまねぎ 作 況：不良

事 由：播種は、早生種「オホーツク 222」では平年並みの3月1日、中生種「北もみじ 2000」では平年より3日早い3月7日に行った。出芽期は、「オホーツク 222」では平年並、「北もみじ 2000」では平年より3日早かった。育苗中の気温はやや高めに推移し、苗の生育は概ね順調であった。移植は、両品種とも概ね平年並の5月1日および5月10日に行った。移植時の草丈、葉鞘径および生葉数は、両品種とも平年から上回った。移植後の5月中下旬の平均気温は平年より高く推移し、適度な降雨もあったことから、活着は良好であった。6月20日における生育は「オホーツク 222」では、草丈および生葉数は平年をやや上回り、葉鞘径は上回った。「北もみじ 2000」では、草丈、生葉数および葉鞘径は平年を大きく上回った。7月上旬は、平均気温は低めに推移したものの、両品種とも球肥大期は平年より4日早く、球肥大は順調で、7月20日における球生重は平年を上回った。倒伏期は、「オホーツク 222」では平年より7日早く、「北もみじ 2000」では5日早かった。球肥大期以降の気温は高めに推移したが、降水量が極めて少なかったため球肥大は両品種とも緩慢になり、一球重は平年をやや下回った。枯葉期は両品種とも概ね平年並であった。8月上旬にまとまった降雨があり、両品種とも平均一球重および総収量は概ね平年並であったものの、分球が多かったことから規格内率は低く、規格内収量は平年を下回った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目		オホーツク 222			北もみじ 2000		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	3. 1	3. 1	0	3. 7	3.10	△3
出芽期	(月.日)	3.14	3.15	△1	3.19	3.22	△3
移植期	(月.日)	5. 1	5. 1	0	5. 10	5. 9	1
球肥大期	(月.日)	7. 8	7.12	△4	7.14	7.18	△4
倒伏期	(月.日)	7.23	7.30	△7	7.31	8. 5	△5
根切日	(月.日)	8. 8	8.13	△5	8.16	8.19	△3
枯葉期	(月.日)	8.23	8.22	1	8.27	8.27	0
収穫期	(月.日)	9. 2	8.31	2	9. 2	9. 8	△6
草丈 (cm)	移植時	28.3	22.6	5.7	26.4	22.6	3.8
	(6月20日)	51.3	46.7	4.6	46.3	36.5	9.8
	(7月20日)	84.6	86.4	△1.8	89.4	85.2	4.2
生葉数(枚)	移植時	3.1	2.7	0.4	3.1	3.0	0.1
	(6月20日)	7.6	6.7	0.9	7.3	5.8	1.5
	(7月20日)	10.4	9.4	1.0	10.5	9.3	1.2
葉鞘径(mm)	移植時	4.5	3.7	0.8	4.4	3.7	0.7
	(6月20日)	14.5	12.5	2.0	12.5	9.8	2.7
	(7月20日)	22.0	22.1	△0.1	22.8	21.1	1.7
葉身生重(g)	(7月20日)	158.2	165.5	△7.3	173.2	137.1	36.1
球生重(g)	(7月20日)	122.8	98.1	24.7	86.8	61.8	25.0
	(8月20日)	241.1	265.4	△24.3	221.1	232.4	△11.3
総収量(kg/10a)		7489	7654	△165	6661	6999	△338
規格内収量(kg/10a)		5608	6602	△994	5310	6414	△1104
同上平年比(%)		85	100	△15	83	100	△17
規格内率(%)		75	86	△11	80	92	△12
平均一球重(g)		240	248	△8	213	225	△12

注) 平年値は前7か年中、平成25年(最凶)、28年(最豊)を除く5か年の平均。

令和元年度 北見農試作況報告（5月20日）における秋まき小麦の草丈および茎数の訂正について

1) 秋まき小麦

訂正前	草丈(cm) (5月20日) の「きたほなみ」の本年	『41.6』
訂正後	草丈(cm) (5月20日) の「きたほなみ」の本年	『43.8』
訂正前	草丈(cm) (5月20日) の「きたほなみ」の比較	『4.0』
訂正後	草丈(cm) (5月20日) の「きたほなみ」の比較	『6.2』
訂正前	茎数(本/m <sup>2</sup> ) (5月20日) の「きたほなみ」の本年	『1506』
訂正後	茎数(本/m <sup>2</sup> ) (5月20日) の「きたほなみ」の本年	『1453』
訂正前	茎数(本/m <sup>2</sup> ) (5月20日) の「きたほなみ」の比較	『98』
訂正後	茎数(本/m <sup>2</sup> ) (5月20日) の「きたほなみ」の比較	『45』

訂正後の表

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (平成30年月.日)	9.14	9.16	△2
出芽期 (平成30年月.日)	9.22	9.25	△3
草丈(cm) (平成30年11月20日)	24.3	17.2	7.1
草丈(cm) (令和1年5月20日)	43.8	37.6	6.2
茎数(本/m <sup>2</sup> ) (平成30年11月20日)	1932	1142	790
茎数(本/m <sup>2</sup> ) (令和1年5月20日)	1453	1408	45

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

令和元年度 北見農試作況報告（9月20日）における大豆の主茎長の訂正について

3) 大豆

訂正前	主茎長(cm)の「ユキホマレ」の平年	『67.6』
訂正後	主茎長(cm)の「ユキホマレ」の平年	『67.7』
訂正前	主茎長(cm)の「ユキホマレ」の比較	『△5.8』
訂正後	主茎長(cm)の「ユキホマレ」の比較	『△5.9』

訂正後の表

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)		9.26	—
主茎長(cm) (9月20日)	61.8	67.7	△5.9
主茎節数(節) (9月20日)	10.0	11.0	△1.0
分枝数(本/株) (9月20日)	5.6	5.0	0.6
着莢数(莢/株) (9月20日)	71.7	67.8	3.9

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。